

子どもサミット新聞

発行・編集
学校教育課学事係
☎43-7112

子どもサミットの活動は今年も被災地へ

平成24年の8月に釜石市で開催された全国生徒会サミットへの参加をきっかけに、大館市子どもサミットと釜石市との間につながりができました。25年3月にはサミット委員の代表15人が釜石中学校を訪問し、ペットボトルキャップ回収活動の報償品として得たプランター32個を釜石市に贈呈し、現地の中学生と交流しました。



昨年度のプランター贈呈の様子

今年度のサミットでは「釜石市とのつながりを大切にしていきたい」という意見が多く出され、今年度もプランターを贈呈することが決定しました。3月14日(金)～15日(土)にはサミット委員の代表13人(小学生3人、中学生10人)が釜石市立甲子中学校を訪問して、プランターの贈呈や現地生徒との交流を行います。

また、サミット委員から「プランターだけでなく、花の種も一緒に贈ったらいいのではないか」「何か復興の手伝いもできないか」「まずは相手の実情や気持ちを踏まえたうえで行動することが大切ではないか」などといった意見が出たことから、今回の訪問の際に甲子中学校の皆さんと今後の活動について話し合う予定です。

大館市子どもサミット

子どもサミットは、市内の全小・中学校(小学校18、中学校10)から男女1人ずつ選ばれた56人のサミット委員で構成されます。

年2回開催されるサミットでは「私たちのふるさとをよりよいまちにするために、自分たちにどんなことができるだろうか」をテーマにして話し合いが行われ、そこで決まったことが市内の小・中学生みんなの目標となります。その後、学校ごとに目標を達成するためのアイデアを出して様々な活動に取り組みます。



5つに分かれてのグループ協議。小学生も中学生も顔を寄せ合って、明るく話し合います。

6年目となった今年度は、8月と12

月に比内総合支所を会場に行われました。「これまでの成果と課題は何だろうか」「大館市をどんなまちにしたいか」を議題にした協議では、「あいさつあふれるまちにしていきたい」「ペットボトルキャップ回収活動にもっと力を入れよう」など様々な意見が出され、熱い議論が交わされました。

子どもサミットのこうした取り組みにより、近隣の小・中学生が一緒にあいさつ運動やクリーンアップ活動をするなど、数校が連携した取り組みが生まれ、また、校外への積極的な働きかけも充実してきています。

サミット委員56人が勢ぞろいしての全体協議。



大人数の中でも隠すことなく堂々と意見を出し合う大館の子どもたち。

